

平成25年度「脳機能とリハビリテーション研究会2013年研修会」開催！

本年も下記の通り、会員を対象とした研修会を開催いたします。昨年好評でした脳画像の読解と臨床応用のためのワークショップを企画しました。グループワークを通して、実際の脳損傷例のMRI脳画像から損傷部位の同定と臨床徴候を推定する作業を行います。初心者の方でも参加できるように、十分な資料や基本的な読影講義を用意し、また各グループにはファシリテーターを配置します。自由闊達な雰囲気での研修会ですので、是非お気軽にお申込みください。

テーマ：MRI脳画像の読解と臨床応用の基礎

○日 時：2013年11月24日(日) 10:00～18:00(予定) 受付開始～ 9:30～

○会 場：タワーホール船堀 3F会議室

○定 員：50名(本研究会員限定です。定員になり次第締め切らせて頂きます)

非会員で参加希望の方は、当日会員手続き(登録と会員費納入4000円)をお願いします。

○参加費：2,000円

○プログラム概要

MRI脳画像読影法の基礎(健常画像・症例画像を使用して)

MRI読影グループワーク(全体像の把握と損傷部位の同定、損傷部位と臨床徴候との関連性)

グループ発表

○参加申込み方法

E-mailのお申込みのみ受け付けます。件名を「研修会参加申込み」とし、本文に①氏名、②所属名、③職種、④経歴年数、⑤E-mailアドレス(返信可能な個人専用のもの)を記載し、下記の研修会事務局までお申し込みください。

後日、参加登録に関する返信を致します(1週間以上返信がない場合は再度お問い合わせ下さい)。

○他団体の履修ポイントについて

他団体への履修ポイント振替の申請方法は、本研究会ホームページに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

研修会専用 参加申込み・お問い合わせアドレス kenshu-2013@noukinou.com

担当 迫力太郎

参加申込みは本研究会会員の方に限ります。非会員の方は、研究会入会手続き完了後、研修会参加のお申し込み手続きを行ってください。研究会入会の手続きは、研修会当日でもできますので、その旨をメール返信上でお知らせください。その場合は、研修会参加可能になります。

研究会ホームページ <http://www.noukinou.com>

脳機能とリハビリテーション研究会定例勉強会のお知らせ

期日：2013年11月3日 13:00～16:30

会場：タワーホール船堀(応接会議室)

発表：講座1題、症例検討3題予定

定員：30名程度

会費：会員無料 非会員500円



参加申込方法

定例勉強会事務局宛に以下の項目を明記の上、メールにてご送信下さい。折り返し、参加の採否について返信致します。メール送信後2日以上経っても返信がない場合は、再度、お問い合わせ下さい。

-----定例勉強会事務局ご連絡・お問い合わせ先-----

E-mail: benkyokai@noukinou.com

件名：定例勉強会参加希望

本文：1. 脳リハ研会員or非会員

2. お名前

3. 勤務先・所属

4. 連絡先(返信可能な個人のメールアドレス)

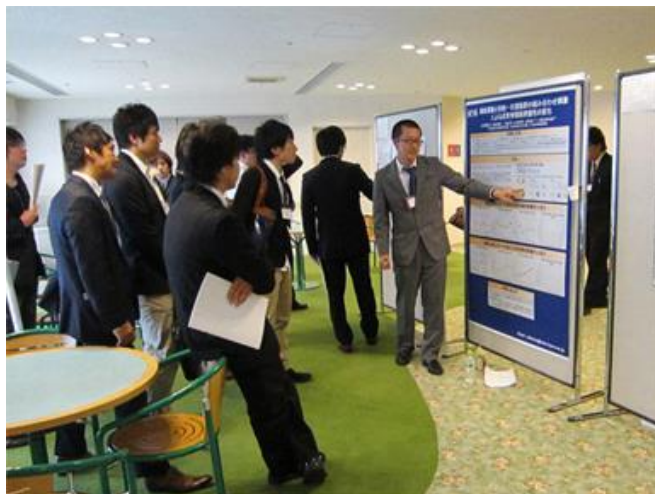
脳機能とリハビリテーション研究会 勉強会事務局
担当：山本 哲

第20回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会報告

今年の学術集会は、大会テーマ「職種の壁を越えた脳機能障害の挑戦」として、リハビリテーションをより学際的に捕らえようというコンセプトのもと開催されました。昭和大学教授の河村 満先生をお招きして、行為障害の脳内メカニズムの講演と、例年とおりポスター発表も行われました。



講演者・河村先生



ポスター発表



懇親会での集合写真

学術集会を終えて

平成24年度の学術集会、研修会は例年通り執りなく終えることができました。今回の研修会は新たな取り組みとしてCT脳画像読影法の研修を行いました。ワークショップ形式で実施しましたが、参加者からの評判は非常に良く、今後の研修会の在り方を考えるうえで貴重な経験となりました。学術集会は発表演題の質量ともに着実に充実してきた感があります。しかし残念ながら昨年度に引き続き、参加者が減少傾向にあることが問題点として浮き彫りになってきました。理事会ではこれを次年度以降の最重要課題として位置づけ、今後の対応策として、その原因分析と企画の在り方などを真剣に取り組むことにしました。本研究会がリハビリテーションの発展に果たす責任は大きいものがあります。今後、これまで以上にセラピストのニーズに応えるべく多彩で斬新な企画を立案し、学術集会の高い活性化を促す方針です。（沼田憲治）

研究発表優秀発表賞

第19回学術集会からの企画として、優秀な演題に臨床研究部門と基礎研究部門から1演題ずつ優秀発表賞を表彰しております。今回の第20回学術集会では、各研究部門から高得点の演題が複数ありましたが、受賞された2演題は、特に総合的に高得点を収められていました。

具体的な選考基準は、以下の5項目を5段階で採点しました。座長あるいは研究会理事から選出された複数の審査員による総合得点により、各研究部門の最高点を算出し決定しました。

審査項目

研究内容の新奇性・独創性・インパクト

(研究内容が独創的かつ革新的。世界に誇れる成果か?)

論理の妥当性、内容の信頼性

(方法、結果、考察ともに、よく考え抜かれており、内容も正確であるか?)

リハビリテーションへの貢献度

(研究成果のリハビリテーションへの貢献度は高いか?)

プレゼンテーション能力

(研究の重要なポイントが明確かつ簡潔に主張されているか? スライド、ポスターが分かり易いか? 質問に対し適切かつ簡潔な応答であったか?)

抄録内容

(規程に従っているか? 研究の背景、工夫点、成果等、重要なポイントの記載が明確かつ簡潔であるか?)

受賞コメント

製鉄記念八幡病院 小柳靖裕

この度は名誉ある賞をいただきまして大変光栄に感じています。

九州に居る私にも、歴史あるこの研究会の評判は以前より耳に届いていましたので、今回思い切って参加させて頂きました。参加して、まず感じたことは「どうしよう」という不安でした。かなりのハイレベルでコアな内容の口述・ポスター演題に圧倒されて、自分の発表内容が場違いのように感じられたからです。発表直前のパソコン不調も相まって、発表時の心臓はパンク寸前でしたが、会場の方々から多くの質問をいただき、救われた気持ちになりました。

今回のテーマであるTBSSという解析手法への取り組みは1年前から行っていたのですが、なかなか解析結果が出せず、言わば産みの苦しみを味わった取り組みでした。当院のテンソル画像データ処理の流れは、①medINRIAによりDICOMフォーマットをVolume毎にreorganization、②dcm2niiにて4D NifTI niiフォーマットへ変換、③FSLのFDT diffusionにより傾斜磁場のゆがみ補正(Eddy Current Correction)、④脳以外の領域をマスク(BET Brain Extraction)、⑤FA画像の作成、⑥TBSSによるFA画像の群間比較、とかなり煩雑でしたので、解析結果までたどり着いた時は、跳び上がって喜んだことを今でも覚えています。ですので、今回の受賞は、感慨ひとしおでした。

今回の受賞を糧に、今後もっと精進しなければと思っています。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

筑波大学大学院 山本竜也

この度は、第20回脳機能とリハビリテーション研究会学術集会において優秀発表賞を賜り、誠にありがとうございます。私は2008年に昭和大学保健医療学部理学療法学科を卒業後、筑波大学大学院人間総合科学研究科へ進学し、産業技術総合研究所にて脳損傷後の機能回復メカニズムを明らかにするための研究に携わせて頂いております。今回発表した私の演題では、上記過程の中で着眼した分子であるSPP1(secreted phosphoprotein 1)が筋委縮性側索硬化症(ALS)の症状と関連があるのではないかという仮説のもと、ヒト組織を用いてALSとコントロールにおけるSPP1タンパク質発現の違いを報告致しました。本研究成果は、研究内容に対してご理解・ご協力頂いた多くの方により得ることができたものです。この場をお借りして深く御礼申し上げます。これからも、リハビリテーション分野の発展に寄与できる研究成果を出せるように日々精進して行きたいと思っております。会員の方々を始め、脳機能とリハビリテーション研究会に関わる多くの皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。

定例勉強会について

本研究会では、定例勉強会を約3ヶ月に1回の頻度で開催しております。約1年前、正式な研究会主催の勉強会に位置づけ、名称を変更してから既に5回を開催しました。参加者は毎回、20～30名ほどで、PT、OT、STなど職種も多彩です。時には学生さんの姿も見られます。過去2回の勉強会を振り返り、概要を以下にまとめてみました。どの発表も興味深く、臨床でも生かせる示唆に富む内容ばかりでした。内容の詳細は研究会のブログでもご覧になれます。勉強会開催のアナウンスは事前にホームページ、ブログ、facebook、twitterなどで配信しております。ぜひ、皆さんも参加してみてください。

第4回勉強会

2013年2月17日(タワーホール船堀)開催

プチ神経科学講座

「慢性疼痛の病態と神経機序」

大塚裕之 (千葉大学大学院医学研究院)

症例検討

1. 「疼痛と不安が遷延した脳卒中例に対する医療連携と
認知行動療法的介入」

大塚裕之 (千葉大学大学院医学研究院)

2. 「右頭頂葉内に限局性病巣を有する症例: 左半側空間無視及び着衣障害」

山本竜也(筑波大学大学院/産業技術総合研究所)



第5回勉強会

2013年5月17日(タワーホール船堀)開催

プチ神経科学講座

「精神疾患の脳内機構: 統合失調症の病態と神経機序」

石井大典(木更津病院/千葉大学大学院医学研究院)

症例検討

1. 「放線冠の脳梗塞2症例における運動麻痺-運動神経局在に着目して-」

岡本善敬(茨城県立医療大学大学院)

2. 「放線冠の脳梗塞によりプッシャー症候群を呈した1例の脳血流評価と身体軸評価」

山本 哲(茨城県立医療大学大学院)

3. 「視床出血後に運動失調を呈した症例」

市村大輔(多摩川病院)

その他: 研究会関連事項

ホームページ: <http://www.noukinou.com/>

ブログ: <http://noukinou.exblog.jp/>

Facebook: 脳機能とリハビリテーション研究会

Twitter: 脳機能とリハビリテーション研究会 nourihaken

Face book, Twitterでは、研究会の最新情報だけでなく、最新の研究成果(論文)を随時オンタイムでチェック・更新しています。最新の神経科学研究を知るには最適なツールですので、是非チェックしてみてください。